



かたらしで

アーチ通信 第21号
令和2年3月発行

「かたらしで」は三島の方言で
「なかまにいて」 という意味です。



三島市障がいと暮らしを支える協議会は、市内関係団体・当事者・事業者の顔の見える
“つながり” 作りを大切に、愛称：アーチのとおり、架け橋になることが目標です！！

いいものみつけた①！！ （皆さんのこえ）

★お店の紹介 ～カフェ&スペース ほとり

日の出町の大場川沿いに、貸しスペースがあるカフェがあります。
管理人の國松様が、ご夫婦で喫茶店を開きたいという思いと、公民館のよう
にみんなが集まることができる居場所を作りたいという思いで、以前進学塾
だったご自宅のビルを改装されて、貸しスペースがあるカフェを作られたそ
うです。

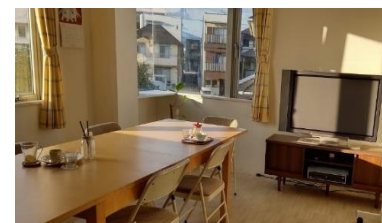
カフェは明るく落ち着く空間で、お茶をしながら、いつまでも過ごしたく
なってしまう。壁には、貸しスペースで開催される様々なイベントのチ
ラシが貼ってあったり、棚には作家さんがスペースを借りて作品を販売でき
るコーナーがあって、見ているだけで、わくわく♪

障がいのある方も参加できるイベントもあるそうですよ。イベントは、お店
のブログでも紹介されています。

貸しスペースは5部屋。防音室にはピアノがあって、ミニコンサートも開
催できるそうです。畳の部屋、映像を鑑賞できる部屋など、イベントによっ
て使い分けできるのも魅力です。

貸しスペースの料金は部屋によって異なりますが、3時間まで1200円・
1500円の部屋と1時間1000円の部屋があるので、詳しくは「ほとり」
さんにお問い合わせください。

（三島市日の出町 4-2 Tel055-975-3670 9:00~17:30



いいものみつけた②！！（皆さんのこえ）



アールブリュット展レポート

2019年11月15日（金）～22日（金）に、三島市の日清プラザ（イトーヨーカドー）の一角で、“天然の表現者 地域の中の障がいアート” 『アールブリュット展』が開催されました。

「アールブリュット」・・・あまり聞きなれない言葉ですが、美術教育を受けていない人などが、既成の表現法にとらわれず自由に制作した作品のことをいうのだそうです。

1階の正面ホールには、三島市障がい者支援センター 佐野あゆみの里、三島市社会福祉協議会 さわじ作業所・えがお さくら班 おんすち、NPO 法人エシカファーム、社会福祉法人見晴学園、社会福祉法人春風会 の利用者の方々の力作が、たくさん展示されていました。

障害のある方の作品を使用して作成するオーダーメイド名刺サービス『kumu meishi』の2020年版に掲載する作品の選定会も同時開催されていて、エリア内の気に入った作品に投票（シールを貼る）することができ、たくさんのシールが貼られている作品もありました。また、フォトフレームづくり・缶バッジ・名刺づくり&交換会・日大美術部の学生さんによる壁画アートのワークショップも開催され、来場された方が熱心に作品に見入ったり、楽しそうに家族で体験している姿が見られました。日・木はお休みです。

サポーター紹介！

<プロフィール>

所属 : 相談支援事業所リベルテ
名前 : 渡辺尚子
好きな事 : 広島カープの応援・犬をなでる落書き
夢 : 老後は広島に移住する
悩み : 体を動かすことが苦手、体力ゼロ
ひとこと : 広島カープ一筋25年
早く日本一になってほしいです



「よなおしギター協会」の活動を紹介します！



めんぼーくん 理事長橋本真也さん

ギター講師の橋本真也さんは、「普通のギターを習い始めてしばらくすると、難しくて挫折する方が多いので、誰でも手軽に弾けるより身近な楽器にしたい」という思いを持ち続けていました。ある日、アイデアがひらめき、2014年に特許を取り活動を始めました。橋本さんは「誰でもが音楽を楽しめる機会を提供したいと、体験会や演奏会、高齢者の教室、学校でのクラブ活動支援を行っています。

「よなおしギター」は、簡単に弾ける！！

弦は6本、それぞれの弦を押さえず弾くとド、レ、ミ、ソ、ラ、ドの音が出るのが特徴です。名称は4番目のファと7番目のシがないことと、「ギターで世直し」を掛けてあります。

ギターのように持って弾くこともできますし、机の上に置き、指1本でも曲が弾けます。

片手だけで多くの童謡を演奏ができます。重さ1Kg、長さ70cmで持ち運びもしやすく、半身麻痺の方、知的障害がある方、子ども、高齢者の方など、それぞれが弾きやすい持ち方、置き方で演奏することができます。

楽譜を読めない方でも弾けるように、歌詞と数字で表記した楽譜を考案しました。体験会で初めて「チューリップ」や「めだかの学校」が弾けた時の笑顔は本当に素敵です。よなおしギターには、「聴いて楽しむ」「自分で弾いて楽しむ」「みんなで合奏して楽しむ」3つの楽しみ方があり、日々の暮らしを楽しく豊かにします。



福祉現場で注目！



高齢者教室 練習風景

橋本さんの旧友で「三島市障がい者応援大使」のソーシャルワーカー「めんぼーくん」こと河合孝彦さんは、「障がい者は自己肯定感を感じる機会が少ない。音楽を通した成功体験は人生における大きな一歩となる」と、施設などを訪れて演奏したり、福祉のイベント講座等で橋本さんとともに紹介したりしています。

このギターを人と人をつなげる♪

ました。賛同する企業が2万円でギターを購入して福祉関連施設に寄贈する取り組みです。協会スタッフがレッスンや講習等のフォローを行っています。

小学校から中学、高校、特別支援学校、福祉事業所、高齢者施設等での体験会や、各種イベント等での体験会も実施しています。インストラクターの養成もおこない、よなおしギター公式サイトもあります。気軽にお問い合わせください。

連絡、問い合わせ先

よなおしギター協会理事長 橋本真也

080-9428-1919 メール yonaoshiguitar@yahoo.co.jp



運動指導のスペシャリスト～水野直子さんをご紹介します！



水野直子さんは、体育大学卒業後、サッカースクール、保育園、放課後児童教室（小学生）での経験を生かし、三島市、沼津市、清水町、伊豆の国市など県東部を中心に、必要に応じて療育の視点や合理的配慮を加えた乳児から大人までの「運動遊び」の指導を行っています。水野さんの運動遊び教室は、「子どもも、大人もいきいきする」「わくわく楽しい」「日常生活で生かせる」など、定評があります。また、定期的な教室だけでなく、保育園幼稚園、学校の授業をはじめ、放課後デイサービス等の事業所のイベントや職員向けの体験型研修会の講師をしています。

各活動の目標

- ・参加者自身が「やってみたい！」「出来そう！」と思えるような仕掛け（プログラムやコツ）を提示することで、自ら積極的に身体を動かすことを応援する。
- ・参加者の持つ力を十分に生かしながら、身体を動かすことを楽しみ、様々な運動に挑戦・経験することで…
 - ・身体そのものの発達を促す
 - ・心の成長につながる
 - ・仲間と時間や喜びを共有する

具体的な手立ての工夫

- ・視覚支援（スケジュール、手形、足形、色など）。
- ・スモールステップ（個々に必要な運動要素を段階つけて提示していく）



- 主な指導先
- ・三島市障がい福祉課委託事業 スポレク教室
 - ・三島市保健センター「遊ぼう会」
 - ・自閉症協会ペアレントトレーニング事業「チャレンジハート」
 - ・子育てサークル「スポパル」
 - ・あしたか学園地域支援事業「きらめきスポレク」
 - ・伊豆の国市生涯学習講座「スポラブ」
 - ・自閉症協会サッカー教室
 - ・民間スポーツクラブ「運動遊び」（幼児、児童）

活動への思い：身体を動かすことに「興味のない」または「自信のない」参加者が、身体を動かすことに対して積極的になっていく姿を見るととても嬉しく思います。そしてそのことが教室中だけでなく、家庭や園や学校での場面につながっていくこと、身体を動かすことの日常化につながれば嬉しいです。

参加者の声：・わかりやすく、楽しい。・子どもの気持ちをほぐすポジティブな声かけをしてくれる。・参加者が「できた！」「やった！」と喜べるプログラムと支援である。・運動の仕組みや具体的な実践方法などを解説してくれて、家で取り組みやすい。・悩みを聞いてくれて一緒に考えてくれる。

お知らせ

事業所、園、学校等の運動遊びの教室、職員研修を随時受け付けています。

問い合わせ先

水野直子 090-2131-3330

nabana70@yahoo.co.jp

はじめまして！『げんき玉』です

名前の由来は漫画ドラゴンボールのあのげんき玉から・・・今まで出会ったすべての人たちとそしてもちろんメンバー、そしてこれからもいろんな人と出会って・・・もっともっと大きくなる・・・そんなメッセージを込めて・・・

見晴学園のご利用者＋スタッフ＋ボランティアなど、音好きが集まって2007年4月に結成。
トンガトンという竹楽器を中心に、スリットドラム・ジェンベやディジュリド、ギロ、マラカスなど様々な民族楽器を取り入れ、演奏や歌・フリーパフォーマンスを披露します。
ギター・ジェンベ以外はすべて手作りで、その他にも旗やTシャツそしてロゴも、自分たちで作りました。

『竹の音色は自然の音・心の音』

・・・と勝手に言葉をつくりましたが、けっこう癒されるものです。

社会福祉法人見晴学園みはらしの丘（静岡県三島市字エビノ木 4745 番地 TEL055-985-2242）



運営会議の報告（12月・1月運営会議）

12月運営会議

（1）プロジェクトチームの進捗状況について

人材育成プロジェクト⇒2/7(金)開催予定のスキルアップ研修(基礎編)について、概略・当日の役割分担・今後のスケジュールを協議しました。

（2）協議会の今後について

「地域課題の解決・診断を進めたい」「プロジェクトのチェック機能を強化したい」「地域事業所(今参加されていない事業所も)が参加できる組織にしたい」「当事者の思いを拾い上げられる組織にしたい」という思いと同時に、「検討事項が多く進まない」「プロジェクトの設置・終結(ゴール)が不明確」といった課題があげられ、運営体制の見直しを含めた検討を続けることになりました。

1月運営会議

（1）プロジェクトチームの進捗状況について

人材育成プロジェクト⇒2/7(金)開催の研修準備が進み、現時点での参加申込みは13名程度となっています。

（2）協議会の今後について

前回の運営会議で抽出された意見をもとに、追加意見の確認をしました。加えて、発足時の協議会のあり方についても皆で振り返り、議論を進めました。

今後の体制案として、部会を設けた運営体制他、いくつかのプランが提案され、次回運営会議で掘り下げた検討を進めることにしました。





おしえて Q & A

地域生活定着支援センター

経緯

2006年、厚生労働省と法務省に働きかけ、「罪を犯した障害者の地域生活支援に関する研究」という研究班が立ち上がった。その研究班の提言によって2009年から全国の刑務所にソーシャルワーカーを設置したり、各都道府県に地域生活定着支援センターを設置するに至った。

静岡県地域生活定着支援センターひまわり

- H21年7月1日開設（H24年全国47都道府県（48ヶ所）に設置）
- 保護観察所からの依頼で矯正施設（刑務所・少年院等）に入所している高齢者・障害者で福祉サービスを必要としている方の出口支援（矯正施設を出る支援）を行っている
- H21 → R1まで、335件の依頼を受けて、159件が住居先につなげた。335件の依頼の内、256件が知的・身体・精神の障害者である。

刑務所内の現実

2018年の新受刑者総数18,272人のうち3,493人、全体の2割が知能指数69以下の受刑者であり、測定不能者も1,160人いて、それを加えると全体の27%の受刑者が知的障害者として認定されている。なかでも、軽度知的障害者と考えられる知能指数50から69の範囲の人たちが全体の約17%を占めている。その他、発達障害と診断される人たちも数多く収容されている。ただ、善悪の判断が定かでないため、知らず知らずのうちに、反社会的行動をとってしまうので、大方が軽微な罪である。

更生保護施設

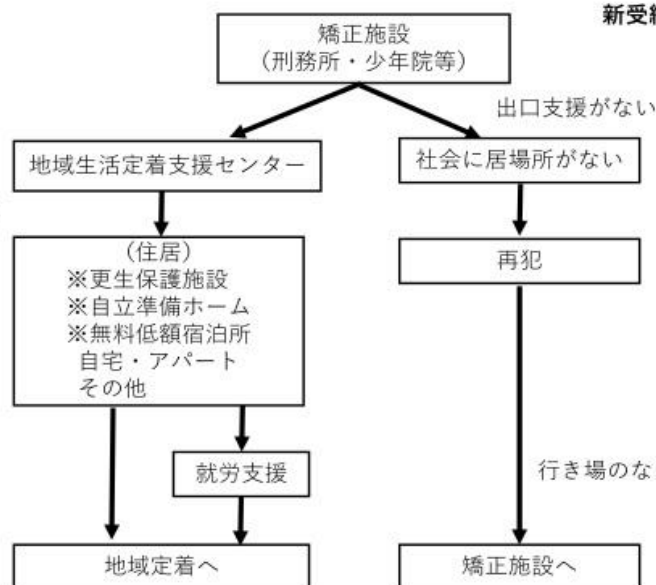
矯正施設退所者や保護観察を受けている方の社会復帰を支援する施設で宿所と食事を提供します。

自立準備ホーム

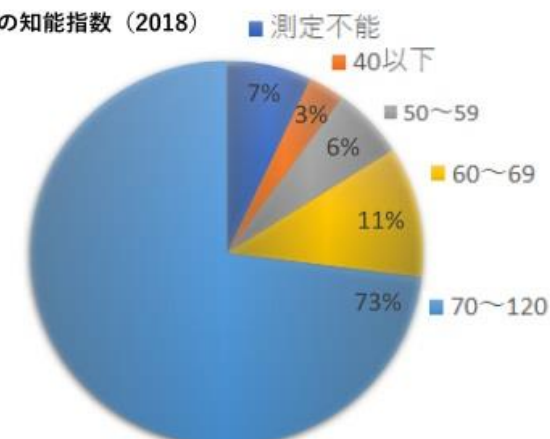
更生保護施設のサテライト型で、社会福祉施設やアパートが登録しています。毎日ホームの職員が生活指導等を行います。

無料低額宿泊所

社会福祉法に規定される第2種社会福祉事業第8号に基づき設置される施設で、生計困難者の為に、無料又は低額な料金を、宿泊所を提供する施設。



新受給者の知能指数（2018）



*より詳しい情報はホームページに掲載しましたのでご覧ください。

三島市障がいとくらしを支える協議会ホームページ

http://kir250520.kir.jp/netcommns/htdocs/?page_id=35

事務局連絡先：(福)見晴学園 相談支援事業所ふあいん

055-976-8386

sole-fine@shirt.ocn.ne.jp

「かたらしで」は今号をもちまして、しばらくの間、発行を休止させていただきます。

記事企画、発行体制をととのえて、あらたな情報誌としてお届けできるよう準備期間を設けさせていただきます。